

感謝を力に、社会に貢献する人材へ



あつや
浅井 惇也 さん
(教育学部 平成30年3月卒業)

「生徒に夢を与えられる教師」を目標に努力を続けます

中学2年生の頃、両親が離婚し母子家庭に。まわりが幸せそうに見え、「なぜこんな目に」と、学校でも疎外感を感じるようになりました。気付けば英語のbe動詞も分からないまま中学3年生を迎えた私に、担任の先生は「君が行ける高校はないよ」と。母はそんな私を塾に通わせました。ちょうどその頃、創大で学ぶ兄が、地元での就職活動を開始。「育ててくれたお母さんを一緒に支えよう」との兄の言葉に、私も決心し、苦手だった勉強に必死に取り組み、地元上位の進学校に合格することができました。

この経験から、私は将来教師になりたいと思うように。大学進学は、地元国立大学が学費も安く、地元の教師になりやすいのではないかと考えました。しかし、国立大学の見学に行くと、キャンパスの学生の様子には、創大生のような温かさが感じられませんでした。知力だけでなく人間力も磨きたいと思い、創大進学を決意。経済面での負担が心苦しかったですが、母は背中を押してくれました。

受験前に創友給付奨学金に採用され、無事、教育学部に合格。小学校、中学校両方の教員免許取得は授業が多く本当に大変でしたが、必死で勉強に挑戦しました。所属したバスケットボールサークルでは副部長を務め、悩みを仲間と一緒に乗り越える中で心を鍛え、一生涯の友情を結ぶことができました。そして、文武両道で挑戦した末、栃木県の中学校英語の教員採用試験の合格を勝ち取ることができ、夢を叶えることができました。入学前と比べると本当に成長できたと実感します。

創大で学んだこの4年間は、最高の宝物になりました。創大に入学させてくれ、最後の最後まで助け、信じ続けてくれたお母さん、本当にありがとう！これから「生徒に夢を与えられる教師」になり、最大の親孝行をしていきます。

母への感謝を胸に世界を舞台に頑張ります

私が高校2年生のとき、ブラジルから来た方々と交流する機会がありました。リオ出身の女性と親しくなり、それからメール等で交流するようになります。この交流をきっかけに、貧しい地域もある中で、とても明るいブラジルの人たちのことをもっと知りたいと思いました。

創友給付奨学生として創大に入学。母子家庭で育った私は、経済的に留学は難しいと思っていました。しかし、ラテンアメリカ研究会での活動をとおり、現地で学びたい思いは募りました。留学を諦めるのはもったいないと奮起。費用負担の少ない交換留学合格を目指し勉強に挑戦しました。2年次からは、朝5時からコンビニで働き、授業に行くという生活を続け、交換留学試験に合格。3年次にブラジル・パラナ連邦大学で学ぶことができました。

留学先では、世界中の友人ができました。文化の違う友人と様々な話をする中で、私は「自分の国のことを知らない」ということに気づかされました。また、ブラジルでも日本の製品が多く使われており、日本のすごさを実感。海外でも信頼される日本の技術力に感動し、将来は日本のメーカーで世界を舞台に仕事をしたいと思うようになりました。

就職活動では、「ブラジルに社社があるメーカー」そして「後輩の道をひらく」と決めて挑戦。不合格通知を受ける度に心が折れそうになりましたが、母や友人の支えで頑張り抜いた結果、三菱電機の事務総合職に内定を勝ち取ることができました。最初の赴任地は地元兵庫です。留学も就職活動も、心を決めて挑戦する中で、何事も諦めずに努力すれば道が拓けることを実感しました。

これまで私と姉を女手一つで育て、支えてくれた母には感謝してもしきれません。これからは私が必ず母を守り、恩返ししていきます。そして、母が自分の全てをなげうって通わせてくれた創大の卒業生として、社会で実証を示していきます。



あき
山口 朱生 さん
(文学部 平成30年3月卒業)

お問い合わせ先

創価大学 学生課 奨学金係

☎ 042-691-2161

FAX 042-691-9475

平日/9:00~17:00 (土曜 9:00~12:00、日・祝日除く)

〒192-8577 東京都八王子市丹木町1-236



syougakukin@soka.ac.jp



▲本学奨学金ホームページ